「エネルギー・原発問題」委員会より

「エネルギー・原発問題」委員会開催

第9回「エネルギー・原発問題」委員会

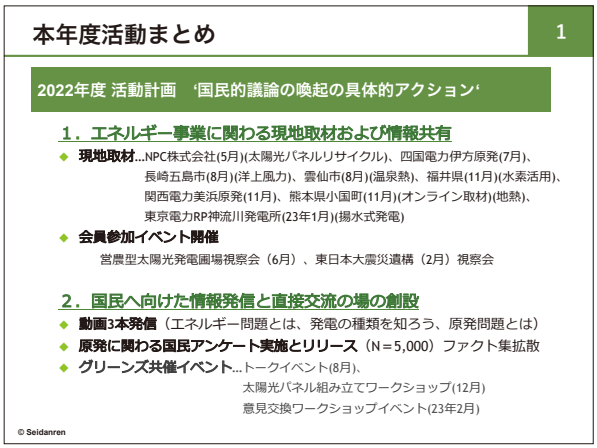
2023年2月16日(木)14:00～16:00　会場+オンラインのハイブリッド開催

2月16日、第9回「エネルギー・原発問題」委員会を開催し、今年度の活動報告および来年度の活動計画について報告・議論を行いました。

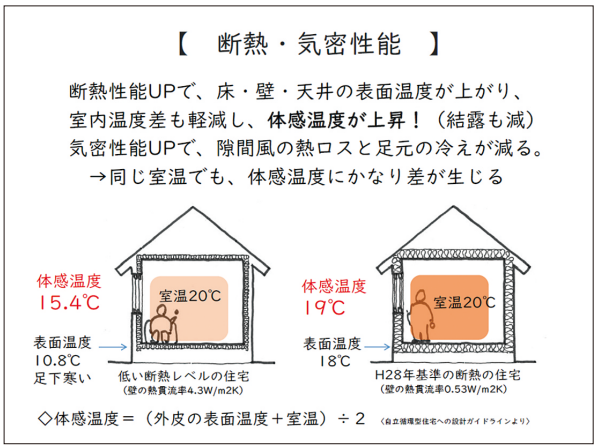
冒頭の講演では、前回講演での省エネの重要さと我々で出来る事の模索の議論をより具体化させるべく、Atelier Bio一級建築士新井かおり様をお招きし、**「企業・一般生活者が簡単に取り組める省エネ・創エネ」**をテーマにご講演をいただきました。

講演では、省エネな暮らしの工夫を幅広くご紹介いただき、大きな気付きとする事が出来ました。

- 省エネを進める上では、特に住居の断熱を意識する事が重要。
- **日本の断熱設計は海外と比べても遅れており**、室内環境の低温は気管支疾病やアレルギー発症との因果関係も考慮し、海外ではより高い断熱性能が求められている。
- 賃貸でもハニカムシェード(窓の断熱)等、住環境改善の可能性は十分にある。
- **電気から熱を生み出すのは効率が悪い。省エネを進める上では、太陽熱温水器やペレットストーブ、ガスを使用するなどして、そうした家電の利用を見直すことも効果的。**



▲「エネルギー・原発問題」委員会22年度活動のまとめ



▲講演講師　新井様資料より

【出席者のご意見(一部抜粋)】

- 今回、初めて参加させて頂き、非常に参考になる事が多く感謝しております。委員会の活動も活発と感じました。個々の省エネ、再生エネルギー等、今後も取り組んでいきたいと考えております。
- 政府は自然エネルギーが唯一の道であるかのような対応で、確かにオプションは少ないのが現実です。太陽光パネルの設置を強力に推し進めるのは反対しませんが、10年～15年という耐用年数で**廃棄の問題や、強引な設置に伴う自然災害などについて対策を考え国へ提言**していかなければならないと考えています。パネルのリサイクル施設を見学されたりしていましたので、**是非再エネの負の部分にも目を向けて事実を確認する活動が継続的に必要**かと考えます。

決議事項

1. 2022年度実施の国民への情報発信強化を継続
2. 2024年予定される政府の第7次エネルギー基本計画策定を見据え、提言や意見表明の実施を視野に情報収集を行っていく